

## 間接疑問節をとる述語の種類と項構造

江口 正 (福岡大学)  
t-eguchi@fukuoka-u.ac.jp

### 1. 本発表の目的

- (1) 日本語間接疑問節に関する問題点の整理
- (2) 間接疑問節をとる述語の分析法に関する提案
- (3) 間接疑問節を取る述語のリストアップ (まだ暫定的)

### 2. 間接疑問節に関する一般的な問題点

- (4) そもそも当該言語に間接疑問節が存在するか (←古代日本語)  
あるとすればどの範囲まで (主節のモダリティ等)
- (5) 間接疑問節と主文疑問文との構造的な違い (主文と節の独立度の違い)
- (6) 間接疑問節の内部構造の種類、補文標識の統語論的特徴  
WH タイプ, yes-no タイプ, 選択疑問タイプ…
- (7) semantic-selection と complement-selection の関係は(Grimshaw(1977))
  - a. I wonder what answer he gave.
  - b. \*I wonder the answer he gave.+WH を選択しているが、他動詞でないため名詞句だと格が与えられない
- (8) 主文中の生起する位置 (品詞性も含む) / 格などの名詞句マーカとの関係
- (9) 間接疑問節を取る主文述語のタイプ: Karttunen(1977)等  
verbs of retaining knowledge: know, be aware, recall, remember, forget  
verbs of acquiring knowledge: learn, notice, find out, discover  
verbs of communication: tell, show, indicate, inform, disclose  
decision verbs: decide, determine, specify, agree on, control  
verbs of conjecture: guess, predict, bet on, estimate  
opinion verbs: be certain about, have an idea about, be convinced about
- (10) 間接疑問節と潜伏疑問名詞句との関係
- (11) Quantificational Variability Effect との関係  
(Berman(1989), Lahiri(2002), Beck and Shavit(2002)等)
  - a. David knows who attended the meeting.
  - b. For the most part, David knows who attended the meeting.

(12) 節の内側と外側の関係づけ (Watanabe(1992)等)

ジョンは[メアリーが何を買ったかどうか]誰に尋ねたの？

### 3. 日本語の間接疑問節に関する基本的な問題

(13) 節のマーカ－：「か」「かどうか」「か否か」「やら」

(14) 間接疑問節と付加的節との違い (服部(1992)など)

何が気に入らないのか、一言も口をきかなかった。

(15) 間接疑問節を取る述語のタイプ分け

日本語記述文法研究会編 (2008)

知識の獲得・伝達・消失に関する述語：尋ねる、聞く、質問する、打診する、問い合わせる、調べる…

知識の有無に関する述語：知っている、わかる、明らかなだ、不明だ、怪しいなど

推測・判断・決定に関する述語：推測する、予想する、考える、判断する、決定する、決める…

命題の重要性・関連性に関する述語：重要だ、大切だ、関わる、関連する、関係する、よる、左右する…

藤田(2000)

未決：「答えられ、解決されるべき未定事項 (= 「懸案」) が未決であるもの

わからない、知らない、覚えていない、不思議がる、疑問に思う

既決：懸案が既決であるもの

わかっていた、知っている、明らかなだ、判断がつく

対処：懸案が答えられ、解決されるべく「対処」することを表すもの

考える、明らかにする、聞く、量る、読み比べる

はたして何が起こるかわからなかった/?わかっていた

(16) 間接疑問節の品詞性、格助詞付加の条件

(i) 連体修飾を受けた場合

以前から問題だった、[いつ開催するか] { \*φ / が } まだ決まらない

どこへ行くかは決まったが、いつ行くかと何で行くか { \*φ / が } まだ決まらない

(ii) 焦点になる場合

A: さっきの問題のうち、何がまだはっきりわからないの？

B: 誰が余計に料金を払ってしまったか { \*φ / が } わからないんです。

(iii) 「議題解釈」の場合

どのようにして催しを宣伝するか { φ / を } 提案した。

(何を提案したか / 何を議題にするか)

(iv) 潜伏疑問名詞句と共起する場合

誰が来たか {φ/\*が}、メンバーがわからない。

(v) 補助動詞「てみる」が共起する場合

彼が到着しているかどうか {φ/\*が/\*を}、中をのぞいてみよう。

(vi) 「決め手」解釈か否か

a. その人がどんな生活をしていくか {φ/が}、結婚相手で決まる

b. その人がどんな生活をしていくか {\*φ/が}、結婚相手を決める

c. パーティーに花子が来るかどうか {\*φ/が} 参加者がどれくらいになるかを左右する

d. 彼が来るかどうか {\*φ/が} 決め手だ

e. 彼が来るかどうか {φ/が}、彼女の一言が決め手だ

(江口(1994),(1996))

係り結びの題述関係説 (藤田(2000))、主題説 (本田(2003))

(vii) 間接疑問節と潜伏疑問名詞句との共起関係

Left-Dislocation 説 (山泉(2008), Yamaizumi(2011))、不定的同格構文説 (江口(1998a), 江口(1998b))、主要部内在関係節説 (Tomioka(2009))

#### 4. 間接疑問節を取る述語の類型に関する提案

間接疑問節と潜伏疑問名詞句、遊離数量詞の関係

- (17) a. 誰が来ていたか、メンバーを知っている。  
b. \*メンバーを、誰が来ていたか知っている。

Tomioka(2009)の議論：遊離数量詞で数えられる

- (18) a. 警察は、誰が宝石を奪ったか、3人知っている。  
b. 警察は、誰が宝石を奪ったか、犯人を知っている。  
c. 警察は、誰が宝石を奪ったか、犯人を3人知っている。

「調べる」「尋ねる」類の特殊性

- (19) a. ?\*マリはパーティーに来た人を尋ねた ←パーティーに誰が来たか尋ねた  
b. カナはパーティーに来た人を調べた ←パーティーに誰が来たか調べた
- (20) a. マリは誰が歌ったか {?\*10人ぐらい/\*全員} 尋ねた  
b. カナは誰がパーティーに来たか、{?\*10人ぐらい/\*全員} 調べた  
c. カナはパーティーに来た人を調べ上げた  
d. カナは誰がパーティーに来たか、{10人ぐらい/全員} 調べあげた

他の例

- (21) カナは誰がパーティーに来たか、{10人ぐらい/全員} {聞いた/聞き出した}

違い：間接疑問節の「答え」が存在することが前提かどうか

「知る」：factive

「調べる」：答えがあるかどうかわからない

「調べ上げる」：結果として答えが出ている

## (22) 「調べる」類の項構造

A が B を調べる : B は+WH

a. 太郎が花子を調べる

b. 太郎が花子の居場所を調べる

c. 太郎が、どういう経路で逃げたか、花子を調べる

「花子」と「どういう経路で逃げたか」は別の意味役割

+WH は述語によって選択されているが、名詞句としては生起できない項である

→「～てみる」の場合に似ている／引用の「と」と同様、単に副詞句？

## 5. まとめ

### 参考文献

Beck, Sigrid, and Yael Shavit (2002), "Pluralities of Questions" *Journal of Semantics* 19:105-157

Berman, Stephen (1989) "An Analysis of Quantificational Variability in Indirect Questions", In *MIT Working Papers in Linguistics* 11:1-16. Edited by Phil Branigan and others. Cambridge: MIT Press.

江口正 (1993) 「間接疑問節の2つの解釈」『九大言語学研究室報告』14:51-68 九州大学言語学研究室

江口正 (1994) 「間接疑問節が二つ共起する文について」『九大言語学研究室報告』15:71-81 九州大学言語学研究室

江口正 (1996) 「間接疑問節の担う意味役割—特に「決め手」解釈について」『愛知県立大学外国語学部起用 言語・文学編』28:343-358 愛知県立大学外国語学部

江口正 (1998a) 「日本語の間接疑問節の文法的位置付けについて—不定的同格要素として—」『九大言語学研究室報告』19:5--24 九州大学言語学研究室

江口正 (1998b) 「引用節・間接疑問節と内容名詞句の共起関係について」『愛知県立大学外国語学部紀要 言語・文学編』30:325--344 愛知県立大学外国語学部

藤田保幸 (2000) 『国語引用構文の研究』和泉書院

Grimshaw, Jane B. (1979) "Complement selection and the lexicon" *Linguistic Inquiry* 10:279-326 Cambridge:MIT Press.

服部匡 (1992) 「現代語における「～か」のある種の用法について」『徳島大学国語国文学』5:57-65

本田晶治 (2003) 「格関係と題述関係—「か」疑問節をめぐる」『日本語学』22(5):64-72 明治書院

- 岩田美穂 (2007a) 「例示を表す並列形式の歴史的変化—タリ・ナリをめぐって」青木博史編『日本語の構造変化と文法化』 pp. 93--113 ひつじ書房
- 岩田美穂 (2007b) 「「ノ・ダノ」並列の変遷—例示並列形式としての位置づけについて—」『語文』 89:48--58 大阪大学文学部国文学研究室
- 岩田美穂・衣畑智秀 (2011) 「ヤラにおける例示用法の成立」『日本語文法』 11(2):60--76 日本語文法学会
- Karttunen, Lauri (1977) "Syntax and Semantics of Questions" *Linguistics and Philosophy* 1:3-44 Dordrecht:Reidel Publishing Company.
- Kinuhata, Tomohide, Miho Iwata, Tadashi Eguchi, and Satoshi Kinsui (2009) "Genesis of 'Exemplification' in Japanese" *Japanese/Korean Linguistics* Vol. 16 edited by Yukinori Takubo, Tomohide Kinuhata, Szymon Grzelak, Kayo Nagai, pp 87-101 Stanford:CSLI.
- 国立国語研究所(2001)『現代語複合辞用例集』国立国語研究所
- Lahiri, Utpal (2002) *Questions and Answers in Embedded Contexts*. Oxford University Press.
- 日本語記述文法研究会編 (2008)『現代日本語文法 6 第 11 部複文』くろしお出版
- 高宮幸乃 (2003) 「現代日本語の間接疑問文とその周辺」『三重大学日本語学文学』 14:116--104 三重大学日本語学文学研究室
- 高宮幸乃 (2004) 「ヤラ (ウ) による間接疑問文の成立 : 不定詞疑問を中心に」『三重大学日本語学文学』 15:124-111 三重大学日本語学文学研究室
- 高宮幸乃(2005)「格助詞を伴わないカの間接疑問文について」『三重大学日本語学文学』16:104-92 三重大学日本語学文学研究室
- Tomioka, Satoshi (2009) "Japanese Embedded Questions Are Nominal: Evidence from QVE" Paper presented at Sixth Workshop on Altaic Formal Linguistics, Nagoya University.
- Watanabe, Akira (1992) "Subjacency and S-Structure Movement of WH-in-situ" *Journal of East Asian Linguistics* 1:255-291.
- 山泉実 (2008) 「間接疑問と潜伏疑問が共起する構文—その意味論・談話語用論・機能的統語論」森雄一他編『ことばのダイナミズム』 pp. 223-239 くろしお出版
- Yamaizumi, Minoru (2011) Left-Dislocation in Japanese Information Structure Theory. 『国立国語研究所論集』 1:77-97 国立国語研究所